

保育における遊びの継承に関する考察と試み －日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊び－

樋口 一成（幼児教育講座）

I. はじめに

筆者は三十年以上に亘って玩具デザインの作成や創作玩具の制作に携わってきた。その中で、日本や海外の玩具メーカーと仕事を共にして商品を開発し、多くの子どもたちの手に玩具を送り届けてきた。その経験から、家庭とともに、保育の現場における玩具の役割や効果は重要であると考えている。しかし、玩具や玩具デザインに携わっている者やそれらを学んでいる者の間では、玩具の名称、メーカー名、遊び方、さらにメーカーや玩具の歴史といったものについてよく知られていることであっても、保育の現場では、それらに関する情報や知識が語られることが少ないと感じられる。

改訂された保育所保育指針¹⁾や幼保連携型認定こども園教育・保育要領²⁾の中では、「身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。」「玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。」「玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。」と、保育の中で子どもたちの成長に合わせて玩具を適切に選んで取り入れることが大切であるとの記述がみられるが、多くの保育の現場では子どもたちにとっての玩具の環境が十分に整えられているのだろうか。

ここ数年、筆者は地域の市町村、幼稚園、保育園からの要請に応じて、保育者の方々の研修会に講師として参加させて頂く機会が増えてきた。そのような機会に、保育者の方々に日本に昔からある郷土玩具・伝承遊び・草花遊びについて尋ねてみると、保育者の多くの方々がそれらで遊んだり触れたりした経験がほとんど無いと答えられることが多い。筆者もこの機会に日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びについて調べているが、これらに関する知識が乏しいことに気付くとともに、調べていく中で初めて知る情報や知識の多さに驚いている。

子どもの遊びは、身近な自然や生活の中にあるものを使って、工夫して創り出され、大人から子どもへ、さらにその子どもへと伝えられてきた。日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びは、長い年月を経て伝えられてきたが、私たちはそれらについてどの程度理解していて、次の世代に上手に受け渡していくことができるのだろうか。今回、日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関することを考えてみたいと思い、参考となる多くの資料からそれぞれの名称・内容・写真を調査してまとめた。このうち名称だけを記した一覧は、参考資料として後掲した。

最近では、子どもたちが日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに触れる機会は減り、同時にこれらが継承される機会も失われつつある。以前は、正月には多くの子どもたちが凧揚げ・独楽回し・羽根つき、福笑いと言った行事や季節ごとの遊びをしている光景がよく見掛けられた。また毎日のように、ビー玉遊び・めんこ・あやとり・けん玉などで遊ぶ子どもたちの姿も見掛けられたが、最近では、子どもたちの遊びが、ゲーム機を使った遊びなどに取って替わって、昔から遊ばれてきた玩具や遊びを見ることが少なくなったように感じられる。子どもたちの遊びは、デジタルゲームやネットゲームの登場により大きく変化し、子どもの遊び場も屋外から屋内へ、さらに複数の仲間と遊ぶことから一人や少人数で遊ぶかたちへと変化してきている。このことによる子どもたちの体力や運動能力、並びにコミュニケーション能力の低下が、既に問題視されている。このような状況が続けば、将来、それまで伝え続けられてきた多くの玩具や遊びが忘れられ、失われてしまうのではないかと危惧される。新しい遊びが悪いことばかりではないが、今の子どもたちには先人が伝えてきた遊びの楽しさや面白さも知ってもらいたいと思うとともに、それらを長くこの先に伝えていくことができればと思う。

Ⅱ. 日本の伝統や文化に関する保育や教育の動向

2006年に改正された教育基本法³⁾の第二条の五では、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」と伝統と文化に関わる文言が強調された。この教育基本法の改訂を受けるように、2008年の中央教育審議会答申⁴⁾「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」では、教育内容に関する改善事項において、「伝統や文化に関する教育の充実」が挙げられた。

文部科学省中央教育審議会の2016年の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の答申⁵⁾では、第一部学習指導要領等改訂の基本的な方向性の第一章これまでの学習指導要領等改訂の経緯と子供たちの現状（子供たちの現状と課題）の中に、「豊かな心や人間性を育てていく観点からは、子供たちが様々な体験活動を通じて、生命の有限性や自然の大切さ、自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性などを、実感し理解できるようにする機会や、文化芸術を体験して感性を高めたりする機会が限られているとの指摘もある。」との記述がみられる。さらに第三章「生きる力」の理念の具体化と教育課題の課題の一.学校教育を通じて育てたい姿と「生きる力」の理念の具体化の一つとして、「社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。」との記述もみられる。

2017年告示の新しい幼稚園教育要領⁶⁾では、第二章ねらい及び内容の環境の二.内容に、「(六) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」という言葉が新たに追加され、さらに同じ環境の三.内容の取扱いに、「(四) 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。」という言葉が新たに追加されている。

文部科学省初等中等教育局教育課程課は、2017・2018年度に「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」を通じて、国際社会で活躍する日本人の育成に向けて、我が国や郷土の伝統や文化についての理解を深める教育を推進し、その成果の普及を図る目的で、七つの都道府県教育委員会・県・大学を「伝統文化調査研究推進地域」として指定し、推進地域及び推進地域が指定する実践校が行う効果的な指導方法の開発や教材の作成、教員研修の充実・改善等に係る調査研究に支援を行っている。これら日本の伝統や文化に関する教育の動向を見てみると、国際社会の平和と発展のため、また子どもたちの健やかな成長のために、我が国が日本の伝統や文化に関する教育を重視し、さらなる充実を目指し推進していこうとする姿勢がみられる。

Ⅲ. 研究の目的

筆者は、自身の経験や我が国の保育や教育に関する動向から、保育の現場において日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する内容を取り上げて、今回研究をしてみたいと考えた。

新しい幼稚園教育要領⁶⁾では、第一章総則 第一 幼稚園教育の基本の中に、「教師は、幼児の主体的な活動が確保されるような幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」とあるが、この中の「教材を工夫し」という言葉が新たに追加されている点から、今後保育者自身が子どもたちのためにさまざまな教材を工夫していく機会が求められていくことになるが、その中の一つとして日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する教材研究を行う機会も増えてくるものと考えられる。そのための一助となればとの思いから本研究のテーマを設定した。

本研究を進めていくにあたって、保育の現場について考える前に、まず愛知県内の保育者養成校の

教育において日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びが扱われているかどうか、またもし扱われているならばどのように取り扱われているかを調査するとともに、造形表現を担当する教員が保育者養成のための授業の中で日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを扱うことに対してどのように考えておられるかということについて伺ってみることとした。さらにそれらをテーマとする実験的な授業を行う中でその方法や問題点を探っていくことができると考えた。

Ⅳ. 保育者養成校の授業の中で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びがどのように扱われているか

愛知県内の保育者養成校のうち、大学3校・短期大学3校の合計6校の造形表現に関する授業において、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容が扱われているかどうか、また扱われている場合にはどのように扱われているか、さらに造形表現を担当する教員が授業の中で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを取り扱うことについてどのように考えておられるかという点について、それぞれお話を伺った。下記のうち、①は「造形表現に関する授業について」②は「造形関連科目で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを扱っているかどうか」③は「造形関連科目の授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを取り入れることに対する造形表現担当教員の思いや考えである。

●A 大学

- ① 1年前期「こどもと造形Ⅰ」－平面技法を用いた制作体験、紙を使った造形教材の制作体験
2年後期「こどもと造形Ⅱ」－立体造形作品の制作体験（粘土・廃材を使った制作、紙を使ったお面づくり）
3年前期「保育指導法（表現）」－幼稚園教育要領等の理解、乳幼児の表現活動の理解、模擬保育の実践
3年前期「教科教育法（図画工作）」－（小学校教員免許取得者のみ）学習指導要領の理解、模擬授業の実践
3年通年「こども学専門演習Ⅱ」－ゼミ：卒業研究のための授業
4年前期「こどもと造形Ⅲ」－造形遊びの活動・協働して行う造形活動を中心とした模擬保育、模擬授業の実践
- ② 造形関連科目で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する講義を行うことは現在行っていない。
- ③ 郷土玩具に関しては、凧、コマ、張子、起き上がりこぼし、からくりなど仕掛けのある玩具を学生自身が模擬授業や模擬保育の中で取り上げることがあるが、郷土玩具と結び付けたり、郷土玩具に触れたりするところまでには至っていない。教養科目「こども学概論」（1年前期）の授業の中で、「乳幼児期の成長・発達と社会的・文化的環境」として、遊びや玩具について取り上げているが、一般的な玩具の機能と種類についてのみで、郷土玩具については深く掘り下げていない。伝承遊びに関しては、折り紙を扱う機会が多い。折り紙は世界各地でみられるが日本は独自で多様な折り紙文化が形成されてきたことについては「保育指導法（表現）」や「こどもと造形Ⅱ」などで触れている。また、音楽的なわらべ歌や体を使った遊びとしての鬼ごっこなどの伝承遊びは、「保育指導法（表現）」の模擬保育の中で、学生たちによって取り上げられている。草花遊びに関しては、「保育指導法（表現）」「教科教育法（図画工作）」「こどもと造形Ⅲ」の授業で植物の色水づくりやどんぐりゴマづくり、葉や枝を使った造形物の制作などを模擬授業や模擬保育の一例として紹介する機会がある。今後は、授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容を紹介し取り扱うことで、学生たちが様々なものづくりや遊びを経験できるような機会を提供できればと思っている。

●B 大学

- ① 2年前期「乳幼児と造形」－幼児期の絵や立体表現の発達を踏まえつつ、モダンテクニックなどの造形表現を実践する。
2年後期「感性性と表現（保育内容E）」－造形表現7/15回。感触遊びを主とした造形表現を体験。その意義を理解する。
3年前期「造形表現」－紙を材料とした立体表現による作品づくり。保育現場での幼児と遊ぶおもちゃづくり。
- ② 現在、造形表現に関する授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容を授業のテーマに取り上げて扱ってははいない。しかし、3年前期の「造形表現」の授業の中では、実習前に現場で使えるおもちゃづくりとして、身の回りの材料で郷土玩具に近いものを作ることがある。
- ③ 幼児期に遊ぶおもちゃとして郷土玩具は有効だと考える。しかし、自分自身郷土玩具についての知識がなく、扱うとしても、独楽、けん玉、達磨落としなど、一般的なものに止まってしまう。郷土玩具の中でも、動きや音など面白いものを扱ってみたいと思う。ただし、保育現場の現状を考えると、郷土玩具と同じ材料では実現が難しいので、身近な素材でできるものを模索したい。郷土玩具を身の回りの材料で作ると、こんなのできるというガイドブックがあればと思う。

●C 大学

- ① 1年後期「幼児と造形」－幼児の造形に関する技法の習得
2年前期「保育内容（造形表現）」－幼児の発達段階に応じた指導方法の研究と模擬授業
3年前期「専門演習Ⅰ」－ゼミ：卒業研究のための授業
3年後期「総合表現技術」－身体表現・音楽表現・造形表現を組み合わせた演劇の制作と幼児への発表
3年後期「専門演習Ⅲ」－ゼミ：卒業研究のための授業
4年前期「専門演習Ⅲ」－ゼミ：卒業研究のための授業
4年後期「専門演習Ⅲ」－ゼミ：卒業研究のための授業
- ② 現在、造形表現に関する授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容を授業のテーマに取り上げて扱ってははいない。しかし郷土玩具・伝承遊びに関しては、お面、張子、風車、竹トンボ、コマ、けん玉などからヒントを得て、紙コップや紙皿を利用して、模擬保育や実習の造形活動に取り入れる学生が毎年いる。手遊びや、お手玉、あやとりなどの遊びは、身体表現、音楽表現の授業で扱うことがある。草花を使った遊びとしては、フロッタージュ、色水遊び、スタンピング、見立て遊びなどの素材として、草花を取り入れることがある。
- ③ 保育者養成校の授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容を扱うことは良いことだと思う。大人からみればあたり前にあると思っていた遊びが、学生や子どもたちには経験がなかったり、逆に新しく感じたりすることがあると思う。また、郷土玩具に

関しても、子どもたちの成長を願い、各地域の身近にある紙や木、竹や土などを使って作られた玩具や人形に学生が目を向けることで、造形美だけでなく、日本各地の風土や暮らし、信仰、美意識、幸福感などを知ることができると思う。大学には、日本全国から学生が集まっているので、地域の伝承遊びの違いをお互いに知る機会にもなって良いのではないだろうか。

●D短期大学

- ① 1年前期「保育内容（表現）」－紙を使ったお面づくり、身の回りの素材を用いたの衣装づくり
 1年前期「幼児表現（造形Ⅰ）」－平面技法を用いた制作体験
 1年後期「幼児表現（造形Ⅱ）」－幼保の現場で応用できる基礎造形活動Ⅰ
 2年前期「子どもの造形」－幼保の現場で応用できる基礎造形活動Ⅱ
 2年前期「幼児学ゼミナールⅠ」－ゼミ：専門的な造形造形活動を通して考察し教育（保育）の実践につなげる授業（活動）
 2年後期「幼児学ゼミナールⅡ」－ゼミ：専門的な造形造形活動を通して考察し教育（保育）の実践につなげる授業（活動）
- ② 現在、1年前期の「保育内容（表現）」の授業の冒頭では、「面」の役割や素材のことを紹介して「面」の造形活動へ入っていく。具体的には、土器や木面に始まり、様々な神事や芸事に用いられる中で、紙による張子やセルロイド、プラスチック製の縁日に売られているようなお面にまで幅広く人々の生活や日常に「面」が存在することを紹介し、幼保の現場においてもお遊戯会や豆まきなど行事の中でも広く活用され、教育（保育）者も幾度と作らなければならない場面があるという風に進行していている。郷土玩具としては、木面や張子によるお面の紹介から造形活動に入っていくところと考える。2年前期の「子どもの造形」の授業では、一番簡単に制作ができ、一番よく飛ぶであろう「ぐにゃぐにゃ風」の制作を、カラービニール袋を用いて行って飛ばしている。郷土玩具と呼称は出来ないが愛知県下の郷土文化として、安城や幸田町では揚げ祭が毎年開催され、豊橋でも江戸時代中期より伝わる伝統風「ケロリ風」と「ハツ花風」などがある。風を受けて空へ舞う風は子どもたちの体験から思考を養うことのできる玩具として現場にて扱えるのではないかと考えている。
- ③ 幼保現場において子どもたちの造形活動に有効ではないかと考える。それは、郷土玩具が身の回りにあり、簡単に手に入る安価な材料を用いて職人さんたちにより作られているため、現代においても100円均一やホームセンターなどで代用できるようなものが多々あることから、工夫次第で簡単に教材として扱うことができる手軽さがあると思う。職人さんが元々は制作したものであるため、幾つかの郷土玩具の構造は幼保の造形活動に向かないものもあるが、その際は、子どもたちが自ら造形するもの、教育（保育）者が作った物を子どもたちに与える物などを見極めて取り扱う必要がある。そのことを踏まえて、郷土玩具を通しての造形活動は幼保の現場、養成校において指導することにも有効的であり、可能性のある教育活動として捉えている。

●E短期大学

- ① 1年前期「基礎造形」－協同制作を中心に、様々な造形素材との出会いと個々の制作も行う。
 1年前期「保育内容・環境」－保育における領域「環境」について演習も混ぜつつ、指導案を作ってみるなどする。
 1年前期「保育者のライフデザイン」－社会人としての常識などを学びながら、保育者として必要な態度知識、技能を学ぶ。
 1年後期「幼児と環境」－モダンテクニックを30種類程度、作り方やポイントをまとめる。
 1年後期「保育者のキャリアデザインⅠ」－基礎学力の形成、社会人としての素養を学ぶ、行事に向けたグループワーク。
 2年前期「保育者のキャリアデザインⅡ」－セミナーの授業。学外研修、季節の行事などを体験。児童画展に関連した内容。
 2年後期「児童文化」－基礎造形でやりきれなかった協同制作や、教材研究などについて深める。
 2年後期「保育者のキャリアデザインⅡ」－通年授業（2年前期～後期）
- ② 郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する授業は実施していない。
- ③ 私自身、郷土玩具は好きで、個人的に集めてもいる。いずれは海外の郷土玩具をもとに授業を展開できたらとも考えている。授業をするとした場合、2年生後期「児童文化」になるかと思われるが、選択授業で1年生のうちに普通に単位を取ってれば、必要のない授業となり、例年受講者が少なく、今年度は閉講している。1年生の前期「基礎造形」、後期「幼児と環境」などに組み込むこともできるかと思うが、現状では優先したい授業内容があつて難しい。短大という特性上、郷土玩具という内容はやや専門的であり、授業に取り入れるとしても2年生の授業で取り扱いたい。もしくはセミナーの活動で取り組むのもいいだろうが、現在行っている児童画のワークショップの企画、実践から、卒業レポートという流れができていて、これも難しい。

●F短期大学

- ① 1年前期「創造活動Ⅰ」－描画材の基礎技法、紙工作の道具の基礎技法
 1年後期「保育内容指導法（表現Ⅱ）」－子どもの絵の発達、教材研究
 2年前期「創造活動Ⅱ」－共同制作、かぶりものの制作、発表会の衣装の制作
 2年後期「児童文化」－児童文化財、伝承遊び
- ② 郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する授業は実施していない。
- ③ 伝承遊びを扱う「児童文化」は、保育内容「健康」領域の教員が担当している。私が持っている授業では郷土玩具を取り扱っておらず、郷土玩具の知識を講義したり、郷土玩具に触れたりする機会はほとんどない。伝承遊びに関しては紙コップなどでけん玉を作ったり、厚紙でぶんぶんゴマを作ったりと、身近な素材で簡単なおもちゃを作ることはある。短大なので2年間しかない中で造形の基礎知識、技術習得のために時間を使うことで精一杯なことや、短大の敷地が狭く、走り回って安全に風あげができる場所がないなど環境面でも制限があり、しっかりと時間を割くことが難しい。

愛知県内の保育者養成校のうち6校の造形表現を担当する教員に、造形表現に関する授業における郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容の現状と考えを伺った。多くの養成校ではそれぞれかたちを工夫しながらできる範囲で、授業の中で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する内容を扱っておられること、さらにもっと工夫を凝らしてその内容や時間を増やしていきたいと多くの教員が考えられているということが分かった。同様のことを、筆者が本学の現状についてまとめると次のようになる。下記のうち、①は「造形表現に関する授業について」②は「造形関連科目で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを扱っているかどうか」③は「造形関連科目の授業の中で、郷土玩具・伝承遊び・草花遊びを取り入れることに対する造形表現担当教員（筆者）の考えである。

●本学

- ①1年前期「初等図画工作科教育内容AⅠ」－平面技法を用いた制作体験（絵の具・パス・版画材料などを用いた制作）
 1年後期「ものづくりリテラシー」－紙を使った造形教材の制作体験（ペーパークラフトとポップアップカード）
 2年前期「保育内容の理解と方法CⅠ」－新聞紙でつくろう！・紙紐でつくろう！・動くおもちゃをつくろう！
 3年前期「基礎技能ⅡA」－3年生全員によるミュージカル制作と地域の園での公演
 3年後期「児童文化Ⅰ」－独楽をつくろう！・お面をつくろう！・郷土玩具について学ぼう！
 3年後期「幼児教育研究法」－ゼミ：卒業研究のための授業
 4年前期「児童文化Ⅱ」－ゼミ：卒業研究のための授業
- ②3年生後期の「児童文化Ⅰ」の中で、日本の郷土玩具・伝承遊び（独楽）に関する内容を取り入れている。
- ③保育者や教員となることを目指している学生たちには、日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びに関する多くのことを学んで、将来出会う子どもたちに伝えて欲しい。そのために必要な知識や技術を積極的に習得して欲しい。

このように授業の中で、できるだけ郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容を扱えるように工夫しているところである。まだ試行錯誤しているところであるがその試みを次にまとめる。

V. 日本の郷土玩具と草花遊びをテーマとした授業の試み

1. 2020年度前期「初年次演習」対象：一年生（26名） 1／15回 郷土玩具・草花遊び

オンライン（オンデマンド）授業の中で、受講生には日本の郷土玩具と草花遊びについてまとめた一覧表を配布するとともに、それらを参考に、各自で一人二つずつの郷土玩具と草花遊びをそれぞれ選んで調べ、その写真・名称・歴史などをまとめてもらい、最後にそのデータを提出して頂いた。

26名の受講生からデータで提出して頂いたレポートにあった郷土玩具は、次のとおり18都道府県29種類の郷土玩具であった。〈北海道〉ニポポ・熊彫り（木彫り熊）〈岩手県〉チャグチャグ馬コ〈宮城県〉鳴子系こけし〈福島県〉赤べこ・起き上がり小法師〈東京都〉すすきみみずく・犬張子〈新潟県〉金魚台輪〈石川県〉起き上がり（八幡起り）〈静岡県〉天竜の風車・浜松の凧〈愛知県〉名古屋の土人形・洲崎神社の五色鈴・桜井凧・豊橋の豆面〈岐阜県〉さるぼぼ・姫の土人形〈三重県〉多度の弾き猿・伊勢の獅子頭〈滋賀県〉近江達磨・小幡の土人形〈京都府〉伏見人形〈兵庫県〉城崎の麦藁細工〈広島県〉三体神輿〈高知県〉坊さんかんざし〈長崎県〉むくりこくり〈熊本県〉おばけの金太：きじ車（きじ馬）。受講生のレポートにあった写真や調べた内容は、ネット等からの引用もあるのでここに掲載することは控えるが、これまで知らなかった郷土玩具について、その形や色、名称や歴史などを知る初めての機会になったとの記述がみられた。

また26名の受講生からデータで提出してもらったレポートにあった草花遊びは、次のとおり32種類であった。トウモロコシ人形、ホオズキの人形、蓮のお面、シロツメクサの花の冠、シロツメクサの指輪、タンポポの風車、タンポポの指輪、タンポポの花落とし、エノコログサ（ねこじゃらし）のレース、エノコログサ（ねこじゃらし）の毛虫、エノコログサ（ねこじゃらし）のうさぎ、エノコログサ（ねこじゃらし）のねずみ、エノコログサ（ねこじゃらし）のマイク、エノコログサ（ねこじゃらし）のちょうちん、カタバミの実のクラッカー、笹舟（笹船）、クヌギの草笛、スイカの種飛ばし、スイカのお面、松葉の相撲、葛の葉のお面、里芋の葉のお面、トマトネックレス、オシロイバナのパラシュート、ニチニチソウのお花の水風船、モミジのトンボ、ナズナの音遊び（ナズナのパタパタ）、朝顔の葉っぱの鉄砲、オヒシバのハートのステッキ、オオバコ相撲、イヌマキの手裏剣、ドンダリのやじろべえ。この草花遊びについては、できるだけ自分で草花を探して体験してみることを推奨したこと、ほとんどの受講生が自分で作った草花遊びの写真を掲載していた。その一部は次のとおりである。

「オオバコ相撲」―道端に良く生えているオオバコ科オオバコ属の多年草であるオオバコは、踏みつけられても耐えられるように花茎や葉茎が丈夫にできており、その特徴を生かした遊びがオオバコ相撲である。細長い花の付いた茎を長めに根元から取り、茎を絡ませ引っ張り合って丈夫さを競う勝負のこと。力に負けて先に花茎が切れるとその人が負けになる。二人で遊ぶので遊びの中でコミュニケーションをとることができるところがよいと思う。また、オオバコだけでなくほかの植物でもやってみて、どれが一番強いのか試してみるのも面白いと思う（写真1）。



写真1：オオバコ相撲



写真2：スイカのお面



写真3：トウモロコシ人形

「スイカのお面」—スイカを半分に切り、中の身を取り除いて乾かした後、ペンで顔を下書きして、包丁で切り抜いた。顔の大きさに合うように、少し小さめのスイカを選択した。顔のパーツを包丁で切ることには苦戦したが、満足した作品に仕上がった(写真2)。
 「トウモロコシ人形」—トウモロコシの皮を使って、人形を制作した。紐からすべてトウモロコシの皮でできており、皮の柔らかさもバラバラなため、きれいに仕上げるのが難しかった。トウモロコシの人形は世界各地で様々な形で作られており、日本では第二次世界大戦以前から作られていたそうである(写真3)。

身近にある草花を使った遊びであるので、手軽にいつでも作ることができそうではあるが、植物に関する知識や遊んだ経験がないと行うことが難しい遊びでもある。この授業を通して身近にある植物にも関心を持つとともに、草花遊びの経験を重ねていくことで、さらにその経験を子どもたちに伝えていくことができるようになる。

2. 2020年度後期「児童文化Ⅰ」対象：二年生(25名) 集中講義5/15回 郷土玩具(独楽)

オンライン(オンデマンド)授業の中で、日本や世界にある独楽の中から、筆者が持っている約40種類の独楽を一つずつ回して遊ぶ姿を動画に撮り、その動画を、YouTubeを通して受講生に見て頂くことから授業を始めた。その中で、独楽の名称・特徴・歴史などについての説明も加えた。このことをきっかけとして、受講生には独楽に興味を持ってもらい、それぞれ一人二つずつの独楽を選んで調べて頂いた。受講生にはそれらの写真・名称・歴史などその内容をレポートにまとめてもらい、最後にそのデータを提出して頂いた。25名の受講生から提出して頂いたレポートのデータにあった日本や外国の独楽は、次のとおり30種類の独楽であった。夫婦独楽、追いかけて独楽(追っかけ独楽)、散歩独楽(トパチ)、卵独楽、ロケット独楽、はねびよん独楽、空中独楽(空竹コジユ・コジユ・輪鼓リュウゴ・デアボロ・ディアボロ・ドライデル・中国独楽)、糸吊り独楽、糸巻き独楽、ちょんかけ独楽、蹴り独楽、捻り独楽、投げ独楽、オプトリックの独楽、フェーブの人形独楽、ブリキ独楽、手より独楽、佐世保独楽、色遊び独楽、飛び独楽(飛び出し独楽・江戸独楽)、ベーゴマ、銭独楽、逆立ち独楽、ベンハムの独楽、京独楽、大吉独楽(賭博独楽)、ぶんぶん独楽(びゅんびゅん独楽・松風独楽)、吹き独楽、提灯独楽、マグネット独楽。受講生のレポートにあった写真や調べた内容は、ネット等からの引用もあるのでここに掲載することを控えるが、これまで知らなかった独楽について、その形や色、名称や歴史などを知る機会になったとの記述がみられた。

この後、調べた内容を参考にして、受講生に各自で身近な材料を使って独楽を制作して頂いた。最後に写真とそれに関する説明文をレポートとしてまとめてもらい、最後にそのデータを提出して頂いた。その中の一つが次のものである。

「花開き独楽」—この独楽は、回すことで周りについている花卉状の飾りが開き、お花のような形になる独楽である。紙皿を胴体、割り箸を軸としており、牛乳パックで作った花卉状の飾りをセロハンテープで貼り付けている。色付けはマッキーペンで行った。この独楽を作ろうと思ったきっかけは、独楽を調べている際に「サクラコマ」という長野県伊那市で開発された独楽を見つけたことであった。桜の名所として有名な伊那市が、下請けだけでなく、新たなモノづくりの仕事を創出するという考えのもと、「完全地産」を合言葉に開発されたのが「サクラコマ」である。回すことでぱっと花開く様子を映像で見て、「もっといろんなサクラコマが見てみたい」、「実際に回してみたい」と思い、今回サクラコマを元として「花開き独楽」を作った。この独楽の特徴は、回すまで花卉が何色なのか、どんな模様なのか分からないということである。花卉が閉じた状態で友だちと独楽を交換すると、花卉がどんな色なのか、どんな模様なのかわくわくしながら独楽を回すことができる。また回すことで独楽が花開く様子は、見ていてとても楽しく、思わず何度も回したくなってしまふ。セロハンテープで花卉状の飾りを付けるところが少し難しく、小学生向けかなと思ったが、保育者の説明、援助の工夫次第で、5歳児でも製作できると感じた(写真4：花開き独楽の閉じた状態、写真5と6：花開き独楽の開いた状態)。



写真4：受講生が制作した花開き独楽(閉じた状態)



写真5と6：受講生が制作した花開き独楽(開いた状態)

3. 2021年度後期「児童文化Ⅰ」対象：二年生（25名） 集中講義5／15回 日本の郷土玩具

先ほどと同じ「児童文化Ⅰ」のオンライン（オンデマンド）授業の中で、受講生には、独楽に続いて、日本の郷土玩具について調べてもらった後、それらを身近な材料で作って頂くという授業を実施した。身近な材料で作って頂いた自作の郷土玩具の写真・自作の郷土玩具についての説明・元の郷土玩具の名称・写真・説明等をレポートにまとめてもらって、最後にそのデータを提出して頂いた。その中の一人の受講生が制作した身近な材料で作った郷土玩具とその説明は次のとおりである。

「小坂井 菟足神社風車」（愛知県）一風車の製作をしたことがあったので、その時の経験をもとに再現した。紙皿やペットボトルと迷ったが、絵のかきやすさと見た目を考えて一番似ている紙コップにした。独特な模様で印象的だったので、油性ペンを使ってまねをして書いた。真ん中につまようじを刺し、ストローの曲がる部分をはめて回るようになっている。真ん中の四角い飾りのようなものも印象的だったので画用紙で作り、つまようじと一緒に刺して付けたところを工夫した（写真7）。

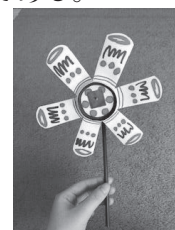


写真7：受講生が「小坂井 菟足神社風車」を参考にして作った風車

VI. 日本の郷土玩具をテーマとした保育者研修の試み

1. 2020年度刈谷市幼児園保育園保育技術向上研修会（保育教諭実技研修会）「保育に生かす身近で手に入る材料を使ったおもちゃ作り～郷土玩具や昔の遊びの再発見とともに」対象：刈谷市立幼児園保育園の保育教諭45名（刈谷市役所次世代育成部子ども課幼児園係／刈谷市役所8階研修室／11月19日実施）

地域の保育者研修会において、日本の郷土玩具、並びに身近な素材を使って作る郷土玩具をご紹介させて頂いた。このとき紹介させて頂いた郷土玩具は、ずぼんぼ、おばけの金太、米食い鼠、餅つき兔、伊勢の獅子頭、張子虎、弾き猿であった（写真8）。このうち、「弾き猿（写真9）」を身近な材料で作る方法や材料をご紹介し、制作体験もして頂いた。この研修会では身近な材料で作った4つの「弾き猿（写真10）」のうち、最下部のものを作って頂いた。安全面、子どもたちの様子、手に入れやすい材料等によっては、ほかの3つの「弾き猿」も制作できるというお話もさせて頂いた。保育者の方々は、郷土玩具と身近な材料で制作できる郷土玩具の見本などを、熱心に写真に収めておられた。



写真8：保育者の方々にご紹介させて頂いた郷土玩具



写真9：三重県松阪市の郷土玩具「弾き猿」

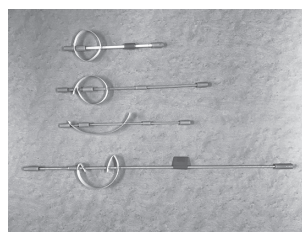


写真10：身近な材料（PPバンド・箸・菜箸・竹串・ラミン材の丸棒・色画用紙・セロハンテープなど）で制作した「弾き猿」

現在、保育者の資質と専門性の向上が叫ばれている。その具体例として、「幼児理解のための保育カンファレンス」「保護者との関わり」「指導計画作成の手順や考え方」「環境の構成の考え方」「保育者集団として高め合う園内外研修」「小学校教育につなげる三つの力（生活する力・かかわる力・学ぶ力）の指導」などが挙げられている。今回、保育における遊びの継承に関するテーマの下、日本の伝統や文化に関する保育や教育の動向を振り返り、保育者養成校における日本の郷土玩具・伝承遊び・草花遊びの内容の取り扱われ方や造形表現担当教員の方々の考えを伺うとともに、本学の授業や地域の保育者対象の研修会で郷土玩具等の内容を扱う試みを行ったきたが、このような取り組みが保育者の資質と専門性の向上のための一つの取り組みになるのではないだろうか。今後は、幾つかの保育者養成校と連携して、この取り組みを継続しながら、遊びの継承についての研究や実践に取り組んでいきたい。

謝辞：「Ⅳ. 保育者養成校の授業の中で郷土玩具・伝承遊び・草花遊びがどのように扱われているか」におけるアンケートにご協力頂いた先生方－江村和彦先生（日本福祉大学 教育・心理学部 子ども発達学科）、加藤克俊先生（豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科）、鈴木安由美先生（愛知みずほ短期大学 現代幼児教育学科）、新實広記先生（愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科）、西村志磨先生（至学館大学 健康科学部 こども健康・教育学科）、山本辰典先生（愛知学泉短期大学 幼児教育学科）〈氏名の五十音順〉。先生方には、記して御礼申し上げたい。

日本の郷土玩具・日本の伝承遊び・日本の草花遊び 一覧

※筆者作成

■日本の郷土玩具

- <北海道>アイヌ人形・イナウ・熊彫り(木彫り熊)・ケリ・ニボボ・函館の蝦夷凧・鶯の爪輪
- <青森県>扇ねぶた・温湯こけし・ずぐり独楽・下川原の土人形(下河原土人形)・津軽系こけし・津軽凧・津軽のずぐりごま(づぐりごま)・八戸のくけまり・八幡駒八幡馬・鳩笛
・ひねり人形・弘前馬こ・弘前のねぶた
- <岩手県>金のペッコ・鹿踊り・チャグチャグ馬コ・南部系こけし・南部の馬玩具・花巻のきなきな
- <宮城県>秋保こけし・唐桑の諸玩具・木下駒・作並系こけし・仙台の張り子玩具・仙台張子・堤人形・遠刈田系こけし・鳴子系こけし・芭蕉わらじ・ぼんぼこ槍・弥次郎系こけし
- <秋田県>秋田のぼんでんこ・生剥土鈴・犬っこ・十二支土鈴・お杉まっこ・角館のいたや馬・川連こけし・木地山系こけし・小坂の土人形・御殿まり・中山人形・なまはげ人形
・焚天・八橋人形・雪靴・横手のぼんでんこ
- <山形県>温海の木地玩具・いづめこ人形・お鷹ポッコ・御殿まり・蔵王高湯こけし・相良人形・酒田の瓦人形・酒田の獅子頭・笹野彫り・笹野彫(鶏)・庄内板獅子・庄内お萩
・肘折こけし・山形こけし
- <福島県>会津若松の凧車・会津若松の天神・会津若松の初音・会津若松の張り子玩具・赤べこ・起き上がり小法師・たつぐるま・土湯系こけし・富岡の張り子玩具
・福島のみさる・三春駒・三春張子(三春人形)
- <茨城県>あやめ踊り・潮来土人形・那珂奏の張り子玩具・農人形・真弓馬と宝舟
- <栃木県>巴波のなます黄鮎・神木杉絵馬・日光三猿・日光の茶道具・眠り猫・農人形・豆太鼓
- <群馬県>総社の挽物玩具・高崎だるま・豊岡の福達磨・豊岡の招き猫・沼田の天狗面
- <山梨県>おみゆきさん・かなかんぶつ・白達磨・土鈴・福竜
- <埼玉県>岩槻人形・鴻巣の練り物玩具・獅子頭・將軍標・船渡の張り子玩具
- <千葉県>柏の土人形・芝原の土人形・千葉のまこも馬・長南の袖凧
- <東京都>大張子・今戸人形・江戸姉妹(あねさま人形)・江戸奴凧・王子稲荷の暫狐・王子稲荷の火防凧・亀戸天神の鴛・熊手・深大寺の藁馬(深大寺の赤馬)・すすきみずく
・ずばんぼ(虎)・だるま・千木宮・飛んだり跳ねたり・弾き猿・富士神社の麦藁蛇
- <神奈川県>江の島の貝細工・大山の木工玩具・岡村の土天神・開港人形・鎌倉の板獅子・こま
- <新潟県>小千谷の木牛・金魚台輪・三角達磨・真之宮護符・鯛灯籠・野呂間人形・六角凧・山口の土人形・雪人形
- <富山県>高岡の獅子頭・富山の獅子頭・富山の土人形(古代犬)
- <石川県>起き上がり(加賀八幡起上り)・加賀獅子頭・加賀人形・金沢の土人形・金沢の旗源平・米食い鼠
- <福井県>越前竹人形・氣比神宮の桃太郎・たまご人形・福井の雪人形
- <長野県>あけび鳩車・折紙二福神像・桐原の藁馬・三四呂人形・蘇民将来・中野の土人形・布引馬・野沢温泉のあけび細工・松本の手毬・麦藁細工(指輪)・藁の鶏
- <静岡県>祝詞・おかんじゃけ・小松の姉妹・清水の首人形・静岡張子・駿河凧・天竜の凧車・浜松の凧・浜松の張り子玩具・横須賀の凧
- <愛知県>赤天神・熱田神宮の授与鈴・犬山のでんでん太鼓・岩塚七所社のきねこさ・牛若弁慶・起の土人形・吉良の赤馬・串馬・彌生泉寺の首馬・小坂井苑足神社凧車
・桜井の凧・三宝荒神の納・甚目寺の振り太鼓・鍾道面と凧車・洲崎神社の五色鈴・東照宮の牛若弁慶・東照宮の初夢鈴・豊橋の豆面・名古屋の土人形
・回り鼠・三河張子面(鐘道)・名古屋城の金鯉
- <岐阜県>一位細工・さるぼぼ・高山の土人形・鯉押え・飛騨祭りの山車・姫の土人形・美江寺の蚕鈴
- <三重県>伊勢の亀の子・伊勢の獅子頭・伊勢の鉢巻・伊勢のヨーヨー・伊勢の鉄砲・伊勢の輪抜き達磨・大入道・桜車土鈴・多度の弾き猿・陶鈴・松阪の猿弾き
- <滋賀県>近江達磨・大津絵馬・小幡の土人形・草津の張り子玩具
- <京都府>紙鯉・祇園鉦・鞍馬の虎・御所人形・嵯峨面・太秦牛祭りの面・東山人形・伏見人形・豆人形・三宅八幡の土鳩・八瀬大原女人形
- <大阪府>今宮戎神社の蔵入・今宮戎神社の福徳・今宮戎神社の宝惠簾・今宮戎神社の箕のり福・神農の虎・喜々猿・塚の土人形・住吉踊り・住吉の土人形
- <奈良県>出雲人形・一刀廓(高砂)・犬守り・鹿玩具・手向山八幡の立絵馬・奈良人形・吉野雛
- <和歌山県>淡島神社の守り雛(淡島の守り雛)・瓦猿・瓦牛・紀州雛・鯨舟・米搦き車・御坊の飾り馬・御坊の獅子頭・御坊の鯛車・御坊の鯛車・御坊の立ち雛・御坊の天神
・高野山の導き犬・寝牛・和歌山の姉妹
- <兵庫県>青葉の笛・淡路島のだんじり・稲畑の土人形・葛畑の土人形・城崎の麦藁細工・神戸人形・人形筆・姫路のこま・姫路の張り子玩具
- <岡山県>うわはん人形・吉備津神社の犬と鳥(吉備津神社こま犬)・久米の土人形・倉敷の張り子玩具・西大寺の張り子虎・玉島の目無し達磨・津山の土天神・百々の土人形
- <広島県>阿伏兎観音の振り太鼓・三体神像・田面船・玉津島神社の白木馬・玉津島神社の笛・保命酒の狸・宮島の鹿猿・三次の土人形
- <鳥取県>田舎雛・岩井挽物人形・大山の竹馬・きびから姉妹・首馬・倉吉のおかめ面・倉吉の獅子頭・倉吉の土人形・倉吉の動物面・倉吉のはこた人形・倉吉のひよっとこ面
・大吉ごま・鳥取のおとん女郎・鳥取の要蔵でこ・鳥取の鹿嶋獅子・鳥取の経蔵坊・鳥取の狸々面・流し雛・鉢巻達磨・面被り・八上の羽子板
- <島根県>出雲張子虎・十二支絵馬(牛)・佐太神社の神楽面・大社のじょうき・白天神・張子虎・松江の姉妹・松江のお宮(松江宮)・松江の蒸気船
- <山口県>阿呼人形(仁玉面)・金魚提灯・下関の土鈴・干珠満珠御鈴・ふく笛
- <徳島県>米搦き車
- <徳島県>藍鳩きお蔵・阿波浄瑠璃面・撫養の首人形・撫養のわんわん凧
- <香川県>金毘羅御神馬・金毘羅の首人形・金毘羅の土鈴・讃岐のちようさ・獅子頭・そばやの屋台・高松のいか・高松の張り子・高松城入り人形・滝宮の念仏踊り
- <愛媛県>宇和島の張り子花まり・姫達磨・ぶうやれ(鬼牛)・松山の姉妹・松山の起き上がり・松山の武者人形・横綱牛
- <高知県>鯨車・鯨舟・高知の姉妹・土人形(河童)・土佐の祝い凧・坊さんかんざし
- <福岡県>赤坂の土人形・芦屋の藁馬・甘木のばたばた・甘木の八朔餅・浮立面・尾崎人形・カチカチ車・清水観音の雉車・太宰府天満宮の鴛・太宰府天満宮の土笛
・津屋崎の土人形・戸畑の蝉凧・博多人形・孫次山・山笠人形・柳川の手まり・柳川の割り松羽子板・吉井の雉車・藁馬武者
- <長崎県>阿茶さん人形・鯨の潮吹き・鯨笛・古賀人形・佐世保独楽・長崎のぼた(凧)・婆羅門凧・むくりこくり
- <佐賀県>杵島山人形・能古見の土人形・弓野の土人形
- <大分県>大分の首人形・女達磨・北山田の雉馬・木でこ
- <宮崎県>青島雛・鶴車・佐土原の土人形・神代こま・泰平踊り・昇り猿・壱輪(人)
- <熊本県>宇土の五人姉妹・宇土の張り子・おばけの金太・きじ馬・木の葉猿・多良木の雉車・南蛮てまり・花手箱・坂角力・肥後こま・肥後てまり・肥後まり・人吉の雉車
・日奈久の板相撲・日奈久のきじ車・日奈久の竹ごま・日奈久のべんた・弁太人形・山鹿灯籠・湯前の雉車
- <鹿児島県>糸雛・馬乗り武者・鹿児島神宮の香箱・鹿児島神宮の鯛車・鹿児島神宮の土鈴・鹿児島神宮の羽子板・鹿児島神宮の初鼓・鹿児島神宮の鳩笛・金助まり
・七粒箱・薩摩首人形・鈴懸け馬・帖佐の土人形
- <沖縄県>沖縄の凧・沖縄張子・くば細工・那覇のうめばーぐ・那覇のちんちん馬・那覇の爬竜船・那覇のぼーとう

■日本の伝承遊び

- あ : あーしたてんきになあれ・あいさつじゃんけん・あがり目さがり目・あつちむいてホイ・あぶくたつた・あやとび・あやとり・あやとりひもづくり・あんたがたどこさい
 い : 石蹴り・いしまつたいまつ・いっぼんぼしこちよこちよ・いちじくになじん・いちりにり・一羽のカラス・糸電話・糸ひけぶんぶん・糸巻き戦車・色鬼
 ・いろはにこんぺいとう
 う : うずまきじゃんけん・腕相撲・馬跳び
 え : 絵描き歌・エスケン・鉛筆合戦・鉛筆野球
 お : お絵かきしりとり・大波小波・大縄跳び・お皿にお箸・おしくらまんじゅう・お嬢さんお入んなさい(おはいんなさい)・おすわりやす・おせんべやけたかな
 ・おちゃらかほい・おつかみ・お手玉・鬼ごっこ・おはじき・おひとつおひとつ・おみこしわっしょい・表か裏か?・折り紙
 か : かくれんぼ・かけっこリレー・影送り・影絵・影ふみ鬼・かごめかごめ・風車・ガチャオニ・紙飛行機・紙相撲・ガムテープ転がし・狩人に挑戦・がりがりとなんぼ
 ・かるた・缶馬・缶蹴り・缶ぼっくり
 き : キックベースボール・木登り・牛乳瓶のフタ飛ばし
 く : 釘差し・草花あそび・草相撲・草笛・靴飛ばし・靴取り・グリコ
 け : ケイドロ・消しゴム落とし・下駄占い・けんけんば・げんこつやまのたぬきさん・けん玉
 こ : 氷鬼・こころこころ・子ども将棋・独楽回し・五目並べ・ゴム跳び・コリントゲーム
 さ : 三角馬・三目並べ・皿回し
 し : シャボン玉・じゃんけん・じゃんけんグリコ・じゃんけん絵と絵・じゃんけん列車・尻相撲・しりとり・進化じゃんけん・人工衛星とんだ・陣取り・新聞紙モップリレー
 す : すいすいすいすいころぼし・数字当てゲーム・双六・スキのパツパ・相撲・座り相撲
 た : 高鬼・風揚げ・竹馬・竹返し・竹鉄砲・竹けん玉・竹となんぼ・叩き独楽・たて波・だるま落とし・だるまさんが転んだ・段ボール土手滑り
 ち : チェーリング・ちやつぼ・チャンバラごっこ(チャンバラ)・ちよちよちあわわ
 て : 手合わせ歌・ディアボロ・手品遊び・鉄独楽・鉄砲遊び・手毬・手毬歌・てんか・天大中小
 と : 駒馬・通りゃんせ・どこいき・土手すべり・ととけこう・ドロジュン・どっちにある?・どっちへとんだ?・泥団子・どんぐりコロコロ・どんぐり笛・トントン相撲
 な : 流しビー玉・なかなかなホイ・投げ竹・名前オニ・なべなべそこぬけ・縄跳び
 に : にくだん・にらめっこ
 は : はじき似顔絵・花いちもんめ・花輪相撲・羽根つき・早口言葉・はやし歌・バランストンプ・ハンカチ落とし
 ひ : ビー玉・ビー玉の三角出し・秘密基地・百人一首・ひょうたん鬼・ピンポン指サッカー
 ふ : ブーメラン・福笑い・ブロック積み・ブランコ靴飛ばし・ブンブン独楽・ぶんぶく茶釜でお茶わかせ
 へ : ペーゴマ・ペットボトルキャップ飛ばし・へび独楽・へび縄・へび鬼・変形独楽回し
 ほ : 棒けしゲーム・棒倒し・ボール遊び・ボール送り・ぼっくり・ポリ
 ま : ままごと・毬つき
 み : 水切り
 む : 虫とり・むすんでひらいて
 め : 目玉落とし・めんこ
 も : もちつき
 や : 山崩し
 ゆ : ゆびかけ・指相撲・郵便屋さんゆうびんやさん
 よ : ヨーヨー
 ら : らかんさん・ランドセルじゃんけん
 り : 陸合戦海空・両手二つゆり・リリアン
 ろ : ローブ回し・六虫
 わ : 輪ゴム鉄砲・輪投げ・輪回し

■日本の草花あそび

●春

アカメのタロコ唇・葦の風車・イタダリの水車・イタダリのままごと道具・イタドリ笛・ウコギの鬼の手・オオバコ相撲・カズノコグサの蛙つり・カタクリの相撲・カモジグサの人形・カラスノエンドウ笛・ギンギン人形・クガイソウの風車・クマザサの亀・笹舟(笹船)・シロツメグサの花の冠・シロツメグサの指輪・菖蒲の親子舟・菖蒲笛・シラカシの葉の草笛・水仙の風車・ススキ笛・スズメノテッポウの笛・スマレの相撲・タンポポの腕時計・タンポポのお灸・タンポポのかんざし・タンポポの水車・タンポポの花落とし・タンポポの風車・タンポポ笛・タンポポの噴水・タンポポの指輪・土筆のどこつないだ・椿の首飾り・椿の草履・椿坊主・ナズナの首あそび・南京豆の殻の爪・ニラ笛・ヌルデの相撲・ネマガリダケの鬼の爪・ノビルの首飾り・落のお面・ホオノキの風車・ホトケノザの風車・松葉の相撲・ミヨウガ笛・ヤマムグラの風車・蓮華の風車・蓮華の眼鏡

●夏

朝顔の葉っぱの鉄砲・朝顔の蓄音機・朝顔の風船・アダンの腕時計・アダンの金魚・アダンのたばこ入れ・アダンの鳥の机・アザミの花かご・アダンの風車・アダンの星コロ・アダンのラッパ・イヌマキの手裏剣・ウツギ笛・エノコログサ(ねこじやらし)の毛虫・エノコログサ(ねこじやらし)のちょうちん・エノコログサ(ねこじやらし)のねずみ・エノコログサ(ねこじやらし)の鼻ひげ・エノコログサ(ねこじやらし)のマイク・エノコログサ(ねこじやらし)のレース・オオバコの葉の鉄砲・オカンジャケ・オシロイバナのお化粧あそび・オシロイバナのバラシュート・オシロイバナのマニキュア・ガジュマルの笠・カボチャの虫かご・木独楽とアダンのムチ・葛の葉の鉄砲・クチナシの水車・クチナシの風車・クヌギの草笛・クバの刀・クバの三味線・クチナシの水車・クバの風車・クバの舟・クワズイモの傘・笹あめ・笹のおかたさま・笹人形・笹の箕・ササゲの葉の鉄砲・ザゼンソウのがったり・里芋の葉のお面・里芋の葉の鉄砲・里芋の帽子・サトウキビの琴・シシウドの水鉄砲・ジンジンハーヤーかご・スイカのお面・スイカの種飛ばし・スイカ割り・ススキの相撲・ススキの投げ矢・ススキ矢・ソテツの馬・ソテツの鎖・ソテツの眼鏡・ソテツの目はじき・ソテツの虫かご・ソテツの実の猿面・ソラマメ人形・大豆の葉の鉄砲・デイゴの手桶・冬瓜の提灯・藤の目はじき・トウモロコシ人形・トマトネックレス・ナスの提灯・ニチニチソウのお花の水風船・ハイビスカスのイボイボ・パチパチ・バナナの牛・バナナのバンバンナー・バパイヤの操り人形・落の葉の鉄砲・フクギの草履・ホオズキの人形・ホオズキの吹き上げ玉・ホオノキの水車・ボブらのかばん・マコモの牛・麦わらのガラガラ・麦わらのかんざし・麦わらの水車・麦わらの住吉人形・麦わらのつばめ・麦わらの手かご・麦わらのパイプ・麦わらの風車・麦わらのへび・麦わらの虫かご・麦わらの指輪・ヤツデの帽子・ヤラブの笠・ヤラブのたこ・ヤラブの飛行機・蓮のお面・蓮の傘・蓮の葉の提灯・わらの馬・わらの亀・わらの鶴・わらみごの亀・わらみごの鶏

●秋

アオギリの舟・銀杏の葉のウサギ・銀杏の葉のキツネ・銀杏の葉の人形・銀杏の実の笛・稲わらの馬・稲わらのトンボとり・イノコズチの実のワッペン・イノコズチのやじろべえ・オナモミで忍者ゴッコ・オナモミの実の勳章・オヒシバの折りたたみ傘・オヒシバの相撲・オヒシバのハートのステッキ・オヒシバのびらびらかんざし・柿の種・首飾り・柿の葉人形・柿の蒂の独楽・カシの首飾り・カシの独楽・カタハミの実のクラッカー・カラスウリの提灯・ギンネムの首飾り・キンミズヒキの実の勳章・葛のかんむり・葛の葉のお面・葛のむかで・葛の虫かご・クヌギの首飾り・クヌギの独楽・クヌギの実の笛・栗の葉の風車・栗の実の笛・ゲンショウコの実の神輿・コスモスの花のプロペラ・ジャノヒゲの首飾り・ジャノヒゲのツツン玉・数珠玉のお手玉・数珠玉の首飾り・数珠玉のネックレス・ススキのみみずく・センダングサの花ダーツ・センダングサの実の勳章・ソテツの首飾り・ソテツの実の笛・タウゴギの実の勳章・タンキリアメの実の勳章・チカラシバのイガグリ・チカラシバの競馬・茶の実の猿面・椿の実の笛・ツワブキのお面・ツワブキの聴診器・ツワブキの手かご・ツワブキの人形・柗の実の笛・ドングリの独楽・ドングリの動物人形・ドングリの人形・ドングリの笛・ドングリのやじろべえ・ナラの首飾り・ナラの独楽・南天の首飾り・彼岸花の提灯・ヒューヒュードングリ・藤の首飾り・ホウセンカの神輿・ホオノキのお面・ミナシグリの水車・ミナシグリのスプーン・ミナシグリのひょうひょう栗・麦わら人形・ムクロジの笛・メヒシバのかさ・メヒシバのほうき・モミジのトンボ・モミの実舟・ヤブジラミの実のワッペン・ヤマハギののこぎり・ヌスビトハギの実のワッペン

●冬

カヤツリグサの恋占い・カラスムギの毛虫・カワヤナギの根木あそび・カワヤナギの柳笛・クルミの皮のラッパ・コウゾのスキー・コシダの弓・竹馬・竹下駄・竹でこ・竹トンボ・竹のウグイス笛・竹のガラガラ・竹のギアコン・竹のスキー・竹の大根鉄砲・竹の縦笛・竹のへび・竹の豆鉄砲・竹の呼び子笛・椿のお手紙・南京豆の耳飾り・南天のかんざし・ヌルデの紅塩づくり・バラのトゲでサイのマネ・ヒラギの風車・ヒラギの風船・マキの提灯・松葉の亀・松葉の鎖・松葉の魚・松葉の相撲・松葉の草履・松葉の鶴・松葉の鉄砲・松葉のはかり・松葉の虫かご・松葉の虫眼鏡・松葉の眼鏡・松葉の弓矢・みかんのくり猿・みかんのシャンデリア・みかんの汁鉄砲・みかんのタコ・ムクロジの羽子・雪ウサギ・ヨモギの投げ矢

引用文献

- 1) 厚生労働省『保育所保育指針』(2017)
- 2) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)
- 3) 文部科学省『改正 教育基本法』(2006)
- 4) 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)」(2008)
- 5) 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016)
- 6) 文部科学省『幼稚園教育要領』(2017)

参考文献

玩具叢書 玩具教育篇 倉橋惣三著 雄山閣発行 (1935)
 日本の郷土玩具・東北 園部澄撮影 坂本一也・西沢笛献文 株式会社美術出版社 (1962)
 日本の郷土玩具 木下亀城ほか著 保育社 (1962)
 郷土玩具から見た日本人の心 潮田鉄雄 日本文化人類学会 民族学研究32 (3) pp.236-242 (1967)
 風土 和辻哲郎著 株式会社岩波書店 (1985)
 遊び―世界の象徴として オイゲン・フィンク著 千田義光訳 株式会社せりか書房 (1985)
 遊び ジャック・アンリオ著 佐藤信夫訳 株式会社白水社 (1986)
 「遊び方」の心理学―遊びの中にみる想像と創造性― 初版第2刷 J.N.リバーマン著 澤田慶輔ほか訳 株式会社サイエンス社 (1989)
 遊びの心理学 エリコニン著 天野幸子・伊集院俊隆訳 (1989)
 遊びの現象学 第一版第三刷 西村清和著 株式会社勁草書房 (1989)
 あそびの理論と実践―ピアジェ理論の幼児教育への適用 第2刷 C.カミイ・R.デブリーズ著 吉田恒子訳 (1990)
 遊ぶことと現実 第8刷 D.W.ウィニコット著 橋本雅雄訳 岩崎学術出版社 (1990)
 遊びの思想 第一刷 下山田裕彦・結城敏也編著 有限会社川島書店 (1991)
 教育者・研究者のための遊び・おもちゃに関する研究集Ⅰ―奨励研究成果集― 財団法人 佐藤玩具文化財団編集・発行 (1993)
 江戸独楽 粋と洒落の手技―伝統と創作 広井道頭・広井政昭編著 株式会社日貿出版社 (1993)
 遊びがひらく想像力 初版第1刷 D.G.シンガー・J.L.シンガー著 高橋たまきほか訳 株式会社新曜社 (1997)
 日本人形玩具辞典 斎藤良輔編著 初版 株式会社東京堂出版 (1997)
 人間はなぜ遊ぶか 初版 M.J.エリス著 大塚忠剛ほか訳 黎明書房 (2000)
 昔のおもちゃをつくろう 大賀弘章著 初版第6刷 株式会社草土文化 (2000)
 おもちゃと遊び―良い玩具の手引書― 山梨県立美術館 (2002)
 戦後のおもちゃと遊び ドイツ人の考える良いおもちゃ、そして日本の人気おもちゃとその未来 山梨県立美術館 (2002)
 創作玩具―玩具と文化と教育を考える― 初版 春日明夫著 日本文教出版株式会社 (2003)
 江戸からおもちゃがやって来た 初版 千葉惣次著 株式会社晶文社 (2004)
 「郷土玩具」で知る日本人の暮らしと心―⑤ たこ・こま・からくり人形…あそびのための郷土玩具 初版第一刷 株式会社くもん出版 (2005)
 郷土玩具にみる色彩表現の特質について 澤村英子 山野研究紀要13巻 (2005)
 玩具創作の研究―造形教育の歴史と理論を探る― 春日明夫著 日本文教出版株式会社 (2007)
 郷土玩具と地域像―岡山県美作地方の泥天神の現在― 岡本憲幸 一般社団法人人文地理学会 人文地理61 (3) pp.249-265 (2009)
 十二支の郷土玩具 初版第1刷 中村浩訳編著 株式会社日貿出版社 (2009)
 おもちゃ(玩具)の循環社会での意義―こどもの発達と玩具での遊び― 廃棄物資源循環学会誌 Vo.23 No.3 pp.180-189 (2012)
 伝承遊びに関する研究(1)―保育に活かすお手玉遊びとして― 青野光子 新潟青陵大学短期大学部研究報告 第43号 (2013)
 幼稚園教育要領における教育内容の変化に関する一考察―領域「環境」の内容分析を中心にして― 姜華 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 20号-2 (2013)
 伝承遊びの意義と実践 草薙恵美子ほか 学校法人國學院大學 國學院大學北海道短期大学部紀要 32 (0) pp.17-29 (2015)
 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申) 文部科学省中央教育審議会 (2015)
 はじめましての郷土玩具 初版第一刷 株式会社グラフィック社 (2015)
 倉橋惣三を旅する 21世紀型保育の探求 大豆生田啓友編著 株式会社フレーベル館 (2017)
 発達 Vol.38 2017 152 特集 倉橋惣三に学ぶこれからの保育 この転換期にあらためて保育を理解するために ミネルヴァ書房 (2017)
 「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究(平成29・30年度)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 (2017)
 幼稚園教育要領・教育課程の変遷と課題 中村三緒子 淑徳大学短期大学部研究紀要第56号 (2017)
 幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 樋口一成編著(株) 萌文書林 (2018)
 幼稚園教育要領の変遷に関する一考察―小学校家庭科を見据えた保育内容「自然」及び「環境」― 天野佐知子 金沢星稜大学 人間科学研究 第12巻 第2号 (2019)
 子ども／おもちゃの博覧会 国立民俗学博物館 (2019)